

- 

又、当地は、縄文時代の金森出雲遺跡、奈良時代から

伏見城の存続した桃山時代から江戸時代初頭の遺構は、厚い整地層の上面に造られており、門跡・石組井戸・溝・掘込み等を検出している。門跡は、礎石などの基礎的な部分及び石垣等が遺存している。これら門跡には炭・焼け瓦を含む焼土層が直接被って堆積しており、焼け落ちたものと見られる。焼土層出土の軒瓦には、瓦当面に金箔が残るものも認められる。この門跡は、大名屋敷の西門にあたるものであろう。木簡が出土した掘込みは、門跡の東方にあたる屋敷敷地内に掘られており、東西約一七m、深さ約二mを測る規模の大きな遺構である。ただ、南北方向については約六mを検出したにとどまり、全長は不明である。遺構内からは、下駄、箸、篋、折敷、曲物の木器や漆器碗とともに、瀬戸・美濃・信楽・備前などの茶陶を含む国産陶器類、刀、小柄などの金属製品等が出土している。また土師器等の土器類も比較的まとまって出土しており、桃山時代から江戸時代初頭に比定される遺物群である。

8 木簡の釈文・内容

(1)

・  
□

中將御覽  
はく衛門

大さか

・  
□

□

□

141×27×7 011

(2)

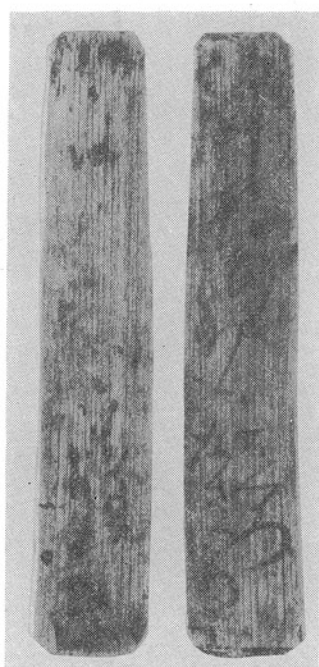
「遠  
□

「石カ」

ます一つ垣□右衛門尉」

327×30×4 051

(1)には中將と見えるが、伏見城の存続した期間に中將の官職を授けられていた武將は、井伊直孝、織田信雄、佐竹義宣、島津家久の四人である。  
(原山充志)



(1)

## 大阪・西ノ辻遺跡

- 1 所在地 大阪府東大阪市西石切町
- 2 調査期間 一九八五年(昭60)一〇月
- 3 発掘機関 大阪府教育委員会
- 4 調査担当者 西口陽一・宮崎泰史
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 旧石器時代～室町時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

西ノ辻遺跡は、生駒山西麓に位置する中位段丘上の旧石器時代以来の複合遺跡である。一九八〇年より国道三〇八号線拡幅及び東大



(大阪東北部)

阪生駒電鉄敷設工事に先立って、大阪府教育委員会・東大阪市教育局・財東大阪文化財協会が共同で地区を分割して発掘調査を実施してきている。

木簡が出土した遺構は、いずれも井戸である。(1)の木簡は、径二・三m、深さ